**集会宣言**

　本日、私たちは五四回目となる「建国記念の日」不承認のつどいを開催しました。

　二月一一日は、一八七三年に明治政府が記紀神話上の神武天皇即位日を記念日として創出した「紀元節」に当たり、国家主義と軍国主義を人々に浸透させる役割を果たしました。一九四八年に「紀元節」は廃止されたにもかかわらず、一九六六年に「建国記念の日」として復活され、今日に至っています。これに対し、私たちは、歴史学会・労働組合・民主団体や市民と共に、これを認めない不承認のつどいを継続してきました。

　昨年は、戦前の形式を踏襲した天皇の代替わりが行われ、安倍政権と一部メディアによって祝賀ムードが醸成されました。象徴天皇制を政治利用する形で、強引に国家への統合を推し進める安倍政権の姿勢に対しては強い懸念を抱かざるを得ません。私たちは、天皇制のあり方を問い直す必要があるのではないでしょうか。

　近年、大国では自国第一主義が横行し、国際社会の分断が進んでいます。日本でも韓国大法院が元徴用工問題の賠償を日本企業に命じた判決に対し、安倍政権は「解決済み」・「国際法違反」と強弁し、事実上の報復として輸出規制を行い対立を深めています。また、中東地域への海上自衛隊派遣を国会の審議を経ずに閣議決定しました。これは、国会の軽視であり、国際社会に無用な緊張を与えることになり、日本の立憲主義と平和主義の精神を根底から覆すものです。

　文化・教育の分野でも、憲法で保障されている表現の自由や教育を受ける権利が蹂躙されています。あいちトリエンナーレの「表現の不自由展・その後」に対する一部の国会議員や地方自治体首長による圧力と文化庁の補助金不交付の決定は、検閲の様相を呈しています。また、大学入学共通テストへの民間試験の導入は延期されましたが、教育に一部企業の営利を許すものであり、受験生の学習権を大きく損なう恐れがあります。

　このような私たちの権利や生活を脅かす安倍政権に対抗する運動は広がっています。全国ではイージス・アショア配備や原発再稼働、公文書の廃棄・隠蔽に抗議する市民運動が展開し、二〇一九年七月の参議院議員選挙では、野党統一候補が多数当選し、与党は参議院で改憲発議に必要な三分の二議席を下回ることとなりました。また、沖縄でも、県民投票で基地反対派が七一・七％と多数を占め、これが追い風となり、統一地方選挙と参議院議員選挙で、新基地反対派が当選するなど、安倍政権の施策に明確な反対の意志を示しています。

　一方、大阪では、大阪維新の会が、二〇一五年に住民投票で否決された「大阪都構想」の実現を目論んでいます。そのなかで、「都構想」の既成事実化を狙い、市立高校の府移管や大阪府立大学と大阪市立大学の統合を推し進めています。また、カジノを含むＩＲの建設をめぐっては、政界の汚職が発覚している中で誘致に固執しています。これに対して、各市民団体は学生、教職員、研究者と連帯し、強引な維新政治に反対する運動を粘り強く展開しています。

　本日の集会を通じて、日本と朝鮮半島との連携のあり方を考えました。私たちは、半世紀を超えて積み重ねてきた学びの成果を確信し、日本国憲法を守り、発展させる立場から、平和と民主主義に基礎づけられた多様な思想・文化と、過去と現在を真摯に見つめる歴史認識の創造を、それぞれの地域・職場・学園で呼びかけ、実践していくことを改めて誓います。

二〇二〇年二月一一日　　　　　　　　　「建国記念の日」不承認二・一一大阪府民のつどい